

デジタル義歯の臨床応用における選択肢

岩城謙二

今日のデジタル義歯には、3D-CAD などの 3 次元データをもとにして、ミリング法にて加工する術式を用いた「ミリング義歯」と3D プリンティングと呼ばれる樹脂積層造形技術によって製作する「プリンター義歯」の 2 通りの製作方法があります。

それぞれの特徴を挙げると、ミリング義歯は高強度な樹脂を切削加工することで、重合収縮のない安定した寸法精度が得られる特長を有しています。また、プリンター義歯は、機種も比較的安価であり、プリンター樹脂による積層造形のため、製作工程を短縮することができます。そのため、一般的にはプリンター義歯の方が普及しているものの、重合による経時的な変形に加え、未重合層の変色も見受けられるため、個人的には低い評価となっています。また、ミリング義歯の適合に関しては、立会いでの感触は非常に満足できるもので、歯科医師からも高い評価が得られています。そのため、弊社のラボでは「プリンター義歯」はコピーデンチャーやプロビジョナルデンチャーなどに臨床応用し、ファイナルデンチャーや粘膜調整剤などで粘膜の再現性を求める症例には「ミリング義歯」というような使い分けを行っています。

そこで今回は、2 通りの製作方法を紹介するとともに、使い分けを判断した根拠についても説明を加えさせていただきます。